

J. 25

特240
988

309

新体制所感



* 0003185000 *

0003185-000

特240-988

新体制所感

東京螺子製作所

昭和16

ABA

特240
988



信 條 三 則

一、従業員は技術報國を念ごすへし

二、従業員は禮節を重んし和衷協力すへし

三、従業員は至誠努力一貫すへし



本講演は昭和十五年九月十六日より同十二月二十三日の間十
回に亘り當社全従業員月曜朝禮に於ける所長訓話の要點を摘
録せるものなり

昭和十六年一月十日

合資會社 東京螺子製作所
經理部 庶務課

新體制所感

一、緒言 (昭和十五年九月十六日朝禮)

最近種々の物資が統制されて随分各方面で不自由になつてきた。

此の統制は最近になつて新體制といはれてゐる。

例へばこういうものは着てならん食事は一週二回代用食でなければならん家は幾坪以上のものは建てゝならん。

と衣食住にも統制されてきたこれが新體制であるといはれてもたれも怪しまず新體制といふ言葉は流行語となつてきた。

日本が過去三ヶ年有史以來の大戦争をして日本より數倍の占領地に軍隊を送つて一大消耗戦をやつた。

だから物資が缺乏してこれを統制しなければならぬことによく解るがこれが新體制であるとはどんなものか。

新體制の指導者といはれてゐる近衛公の聲明文を讀んでも今迄のすべてのものを新たに新しい組織にするといはれてゐるがこれだけではピンとこない一般によく解らない

のではなからうかと思はれる。

又内閣情報部發行のパンフレット週報に新體制とはどういふものかといふ題で新體制が説明されてゐる。

これは今後こういう具合に統制されてゆくといふことが書いてあつて新體制の説明ではない原因をはつきりせずして結果は説明にならない。

自分は新體制といふ言葉が世間にはれてきてから新體制とは何のであるかを久しく考へたそして自分にはよく解かつたと思つてゐるがこれから説明する自分の新體制に關する所感は或は諸君にピンとこないかも知れないができる限り解りやすく話すつもりである。

説明する前に諸君に希望することは過去の經驗から愚論愚説に迷はされないやふにして貰ひたい。

といふ譯はさきの歐洲大戦後マルクスの共產思想が嵐のやふに世界を吹きまくつた時其の暴風の中心はロシアであつた極く近くにあつた戦後疲弊のドン底にあつてこの嵐に吹き捲かれて將に國家は滅亡の一步手前までいつた獨乙や

伊太利はヒットラーやムツソリニーが出なかつたら没落したであらう。

日本は幸に暴風の中心を遠くはなれてゐたが餘波はかなりひどかつた學者評論家其他知識階級一部の人は新聞に雜誌に或は團體に呼びかけて共産思想は大流行となつた。幸ひにも突如滿洲事變が起つて此の思想は大風一過烟のやふに消へて其の次に出たのが建國の精神に歸れといふのであつた。

するとまへの學者評論家知識階級一部の者共は猫の眼のやふに主義も思想もへちまもない厚顔無恥にも我國體の尊嚴等を並びたてた。

これらの人々によつて一本調子の者は赤化思想に染むで随分氣の毒な人が澤山できた今なほ刑務所に入つてゐる人がたくさんあるそふだ。

まだ共産主義を思想とする人々もたくさんあるやふである。何故にこふいふ事を注意するかといふと理由は段々に解る。

さて新体制の本論に入るが自分が最初に新体制は何故はつきりせないかと頗る疑問をもつたことを話しそれから本論

に入ることにしたい。

この新体制といはれてゐるものは新しい思想からきたものだともたのである滅亡一步手前から救ひだして獨乙伊太利を今日の隆盛にした思想が基となつたと見たのである。

近世に於ける大發明は決して新兵器でも何んでもない共産主義思想を排撃したこの思想即ち全體主義思想であると斷言するのである。

此の思想の發見者は誰かアドルフヒットラーである。

こゝに於て新体制がはつきりせない原因を見出した。

其れは新体制の思想とはヒットラーの考へだした思想と同じであるからだ。

極端に言へば日本の新体制とはヒットラーの思想であるといへないからだと思つた。

さう考へて來ると新体制とは今迄の考へを新しい考へに置き換へる即ち今迄の自由主義の思想を獨伊の全體主義思想に置き換へるのであるといふことがいへるのではないかと思つた。

そしてこれを日本化せんとするのであると考へて見た。

近衛公もはつきり此の點は言はれて居る今迄の自由主義に立脚した政治經濟文化に亘つて一新するのであると云はれ

て居る。

然らばこの新体制即ちヒットラーの全體主義獨逸國民を指導したものは如何なるものかを知る必要がある。

これを考へて見ると更に今迄にあつた思想即ち古いものから順に考へてみると解らない。

即ち自由主義思想共産主義思想と最後に生れた全體主義思想この三つの思想を生れた順に考へてみる必要がある。

一、自由主義思想

(昭和十五年九月二十三日朝禮)

明治維新後外國の自由主義思想が輸入されて我國の政治組織は主として英國の組織を範として構成された即ち國民の自由が主となる政治機構が生れたのである。

この國民が自由を要望するかたはどういふものであつたかといへば國會を開くにあつた徳川幕府時代は國民の意志國民の希望は容れられなかつたのである。

そこで民意は自由民権といふ言葉で表はされて全國民が爲政者に要望する聲は激烈をきはめた。

これを彈壓する舊勢力に反抗して全國に流血の慘事をまで引起した。

遂に自由民権を國民は確保して茲に帝國議會によつて今日迄日本の國政は運用され過去八十年間に偉大な功績を擧げ世界列強に伍するに至つたのである。

先般古い歴史を持つ政黨で解散した中に政友會があるが此の偉大な勢力のあつた政友會は前には自由黨といつて居た。

他國の例を見てもアメリカに自由の女神といふ有名な銅像がニューヨークの港に立つてゐるこれはアメリカ國民が自由のために戦つた紀念として全アメリカ人の國民精神を表はすものである。

斯様に自由主義思想は全世界人の思想であつたといつても過言ではない。

この自由主義思想とはどういふものか一體人間は自由を愛さないものが一人でもあらうか不自由を好むものは恐らく一人も此の世にはあるまい。

ひとり人間のみならず犬猫の如き動物に至るまでも自由を奪はれて喜ぶものはないであらう。

かう考へてくると自由はひとり人間のみならず他の動物も同じく欲する自然必然的な本能であるといへるのである。

自然に肉體と共に持つて生れた性質といへるのである。

この自由を愛する人間の本能を基とした自由主義思想が何故悪いか。

先般陸軍の精神指導官の講演中に日支事變を収め東亞新秩序建設をなすには従来の自由主義思想を排撃することは絶體に必要にしてこれは軍の抱懐する重大事の一つであるといはれたことを諸君は未だ耳に残つて居るはずだ。

以上述べた人間の本能である自由思想が何故悪いか過去八十年間日本の興隆のもとであつた此の思想が何故悪いかといふ事はつきり解らないといけない。

確かに悪い事がある。茲に一匹の犬がうまいものを食べてゐるこれを他の犬が食はんとする忽ち激しい闘争が起る人間も同様の性質があると思ふ。

さうすると自由主義は一人でうまいものを食ふ主義であるともいへるのじやないか。

自由を欲して他の束縛を受ける事を厭ふのは個人が主となるから個人主義ともいはれて居る。

そこでよく考へて見ると一人の強い者が多くの食物を山程積んでたれにも分けてやらないとすると多くの弱いものは食ふ事が出来なくなる。

自由は人間の欲するものではあるがこれが以上述ぶる如き事となつては考へざるを得ないではないか。

自由主義が極端になつてはかういふ悪主義となつてきた。自由主義は初めはよかつたが終には悪くなつたことをはつきり知つて置く必要がある。

三、共産主義思想

(昭和十五年十月一日朝禮)

この思想は今より約百五十年前位前獨逸のマルクスといふ人が唱へたものださうで當時は誰も耳を傾けるものがなかつたが前の歐洲大戰後ロシアの革命から大流行の思想となつた。

自由主義思想は遂にひとりでうまいものを食ふ主義となつてこれではいけないと思ふ頃にこの共産思想が百年の夢を破つて出てきた。

どういふ思想であるかと言へばうまいものを多くの者で分けて食ふ主義であるだから飛びついて流行するの無理もないことである。

此れが公平な思想であると思ふものがたくさんできたのもむりからぬものである。

これは自由を愛する人間の本能であるからだとして居られるか。

適例は英米の自由主義國に見出される。

英國は世界の四分の一の廣大な領土を持つてゐるさうである。

世界至る所の領土から莫大な物資を自國に運びこれ等の領土に住む者は政治經濟文化の凡てを奪はれ自由を束縛され奴隸となつて働らいて居る印度三億の民を見よである。

のみならず英米は持ちあぐむ物資を日本や獨伊の如き物資のすくない國に分けやうとせないのではないか。

金持は一人でブク／＼ふとり貧乏人はいつまでも貧乏するばかりであるとすればこれ位不合理なことはない。

これは人間の本能である自由を尊ぶ結果であると平氣でいられるか。

諸君でも己一人で働いた金で何をしやうとかまはないじやないか何故それが悪いかと言つて他人の迷惑になる道徳を無視した事をやる人が多くなつたらたまらないじやないか。

如何に自由は人間の愛するものであると言つてもこれでは問題になるまい。

例へば茲に一町歩の土地があるこれを十人に分けるとすると一人當り一反となるこれはまことに公平な分配である。

然し乍らこれは馬鹿でも利口でも勤勉でも怠け者でも一反歩限りである公平に分ける分けたら最後これを他に譲る事は出来ない。

若し怠け者が勤勉な者から物を貰つて其のかはりに自分の持つ土地を譲つて食つてゆく事になれば平等が破れるから共産にならなくなつて自由に悖るから絶対にいけないことになる。

よく考へてみると大勢で分合ふことは大變よいことではあるが馬鹿も利口も怠け者も勤勉な者も同じでは眞の平等とはいへない。

茲にこの主義の缺點がある。

而かも此の主義は以上の如くであるから表面は平なものにはなるが内面はさうでなくなる何故か。

自由にして置くと利口勤勉の者が餘計に物をとるから強い武力或はソ聯の如くゲベウと言はれて國民を震上がらせるものを置いて監視せねばならぬから自由を奪はれ内心は平かでない。

何故こんな缺點のある思想が流行したか。

前回述ぶる如く自由主義の極端な缺點が現れてきて多くの弱者が下積になつて自由が不自由になつてきたからである。

もつと公平な世の中にしたたいと望んでゐたとき出てきたのだから飛びついたのもむりない事である。

以上述る如く此の主義は一應よい主義であるやうに見えるがよく考へて見ると全く人間の本能である自由を奪ふことになる唯國民は生きてゐる機械に過ぎない少數の権力者に押へ付けられ身動き出来ないことになる。

現に此の主義を實行して居るソ聯の國民は幸福とは思はれないさうである従つて最近はこの主義の根本に動きがあるであらうといふ見方さへあるさうである。

しかしこゝに一つの疑問が起ると思ふ。何故そんな主義であるのにソ聯がこの主義のもとに二十年も永い間續けてゐるかである。

これは一言にしていへば物資が豊富であるからであるこの主義を實行したはじめ流石物資の多いソ聯も何十萬人の餓死者が出来た程の饑饉になつたのでもわかる。

若し日本のやうな物資の少ない國であつたら國家は滅亡するであらう。

以上で共產主義思想の事がはつきりしたと思ふ。自由及共產兩主義共に長所短所のあることをはつきり頭に入れて置く必要がある。

四、自由と共產主義

(昭和十五年十月七日朝禮)

既に述べた如く自由と共產兩主義の根本の差は解つたと思ふが茲にいはいはんとするものは此の兩主義を結び付けたらどうなるかである。

茲に一本の棒がある一方の端が自由主義で他の端が共產主義であるとすると。

何故なれば自由主義は一人で食ふ主義共產主義は其の反對の一人で食はない主義であるからである。

そこで此の兩主義を一本の棒に例へてさうしてよく考へてみると兩主義は思想と言ふ棒の兩端であるといへると思ふ。

だから此の兩主義は同一のものであると思ふのである。何故此の正反對の思想が同一であるか。

例へばよく喋ることの上手な人がある此の人は話がうまいので得をする事が多いだからお喋りがこの人の長所であるか。

のであるか。

五、全體主義

(昭和十五年十月廿一日朝禮)

自由主義と共產主義を一本の棒に例へて考へて見ると此の兩主義は同一のものであつた。

さうして全體主義を考へるとき此の思想は自由及共產思想の缺點を補ふものでなければならぬから一本の棒の中心であるか或は亦此の棒の兩端を繼いで輪にしたものであるか。

久しく考へて見たがどうもこれでは解決がつかない何故であるか一本の棒の中心とするとあるときは右にあるときは左になる場合が考へられる。

亦兩端を繼いで輪にしたと考へるとこれまたグルグル廻る事になる。

さうすると此の中心やまた輪に考へる事は完全無缺の思想とは言へないと思ふ。

斯う考へてくると唯物思想としてはこの世の中に自由及共產思想以外にはないと断定できると思ふ。

何故であるか一本の線は點の集りであるからである。即ち自由及共產兩主義は同一のものであるからこの點の集

る。

然し乍ら餘りよく喋るので時として人の迷惑になる事もつい喋つてしまふ事があるだからお喋りが此の人の短所ともなる。

同様に實に器用な人がある何をやらせても器用にやるから人に用ひられるこの人はこの器用が長所である。

この反對に器用なるが故につい誤魔化をやつたり偽を器用にやる事があるこれが短所となる。

このやうに人間のもつ長所と短所が同一の根元から出るものである事は明かである。

亦これを物理の現象に例へて見てもあてはまる假に電氣の例をとる。

電氣には陽極と陰極とがある陽極と陽極を合はせると反撥して電氣は通らない陰極と陰極とも合はないが。

陽極と陰極即ち兩極端を合はせると通じて電燈をつけ電車を走らす。

斯くの如く長短は同一根元より出て同一のものである。

であるから一本の棒の兩極端である自由主義と共產主義は同一のものであると思ふのである。

果して然らば次に生れてきた全體主義思想とは如何なるも

(、、、ものじやない。)

、、、かぶつて居るやうだ。

斯くの如く政治經濟文化に亘つて自由主義思想は私の利益を先にしてゐたのである。

公益を先にする事は過去のこれ等の物慾を清算して冷く人類の幸福な世の中にするのを目的とするものと思はれる。

然らばどういふやうにするのか。

茲に出征して前戦に奮闘して歸還した勇士があるこの人々がどういふ態度に出るかを興味を以て居たのである。

前戦に出て奮闘するときは神の如き心で祖國のために戦つたのに相違はない。

吾々は心から感謝してゐる。

然るに歸還して職場に歸ると全く變つた人となるやうである。

矢張り他の人と變りはないもにかへる即ち神が凡人になる。

と思ふ。

其の目標は勿論資本家であるが併せて會社の幹部を排撃したではないか筋肉労働以外の労働を認めなかつたではないかこれが證據である。

然らば全體主義に於ては共產主義の多くで食ふ主義はよいが馬鹿も利口も怠者も勤勉な者も同一に見る自由を認めない缺點はどうなるかである。

一言にして言へば金權を排撃して残つた勤勞は指導労働知識労働筋肉労働となる。

丁度三角形の頂点が指導労働で其の兩邊が事務及技術労働で底邊が筋肉労働である。

指導労働は公益になる凡ゆる創造をなし技術事務労働によつて計畫準備化し筋肉労働によつて實現化するのである。

金權及物資はこの例外に置く従つて公益になることでは資本及物資は必然的に集つてくる機構を造るこれにより各自の能力によつて自由を認める。

先日新聞にヒットラー總統がゲーリング元帥其他數人に元帥杖を贈つた寫眞と記事があつたのを諸君はみただであらう。

其の元帥杖には千九百四十年大獨逸自由のための戦により

甚しいのになると出征して會社から補給金を貰ふ會社が祖國のために戦ふ人々に感謝と後顧の憂なきやうに務めるのは當然であるが。

それにしても歸還して一年にもならないのに金の爲に買はれて工場を去る人がある。

公益を先にする心は斯ういふ心でない前戦に祖國のために戦つた神の如き心を以て公のため即ち大君のため國家のため同胞のために働く事が望ましいこれが理想であると思ふ。

七、共產主義と全體主義

(昭和十五年十一月十八日朝禮)

全體主義は物慾を金の妄者を排撃すると残るものは何んであるか勤勞である。

すると共產主義と同一じやないか斷じて違ふ何故か共產主義の創始者であるマルクスは一大誤謬がある。

何が誤謬であつたかマルクスは勤勞至上主義を唱へたが其れは筋肉労働であつた。

其の證據には勤勞運動盛んなとき労働團體の幹部の指令によつてストライキをやつた茲に經驗のある人も相當に居る

と彫刻してあつた。

如何にして自由を認めるかと言へば今言つた如く共產主義の如く筋肉労働至上主義でなく創造労働至上主義である。

即ち勤勞により人類に福利を生み出す創造によつて各人の自由を認める。

言ひ換れば一生懸命働いて世の中の爲になる事爲になる物を澤山造る人爲になる考案をした人は社會の上位に生活する自由が得られるのである。

これに反し世の中の爲にならん不勞所得をするもの例へば閣取引の如きものは社會の下位になるのである。

だから簡単に言へば金を儲ける事を最高とした世の中を努力によつて考案し亦働く事を幸福とする世の中にするのである。

例へば事業の經營者は資本を出したのみで社長になれない。

金があると言つて軍隊で師團長になれるか伍長にもなれない事は誰も知つてゐる。

何故か指揮が出来ないからだ。

事業も同一である經營者は其の事業に精通して居らなければ指揮が出来ない。

天皇陛下萬歲

を唱へて戦場の華と散るではないか。

我々日本人の血液の中にはこの二千六百年間一貫して流る

天皇の御精神が日本民族の血の中に浸込んで居る。

斯くまで考へてくると新體制は新しいものでないと考へら

れてきた。

寧ろ

天皇の御精神に歸れと言つた方がピンとくるのだと思

ふ。

かう思ふてくると青年時代に何かの本にあつた外國の詩人

の詩を思ひ出した。

この詩人は動物の習性を研究して居たが其の中で狼の習性

を表したものがあつた。

狼は群をなして山中に住み其の一匹が兎をとる決して自分

ばかりで食へない必ず一口でも皆んなで食べる感心な動物

である。

其れが人間に飼はれると決して分けて食はない。

或る人家に大事に飼はれて居る犬が夜な夜な胸苦しさを感

じ、じ、のやうになつて走り廻る。

其れは懐かしい聲が何處からとなく聞えてくるからだ。

其の聲は夜な夜な次第に近づいて来る。

或夜遂に其の聲の主が遙か遠方の山に姿を見せた。

狂ひ喜んで飛んで行つた遂に其犬は再び家に歸らなかつ

た。

此れは何を諷したものであらうか。

色々の場合を想像し得る誤つた考へを持ち家を親兄弟を夫

を妻を友を主人を捨て眼がさめたときもとの人々を懐かし

く思ふ事が世の中に澤山ある。

自由思想共産思想に走り懐しい日本二千六百年間一貫して

天皇の御思想に歸る今日を諷してもよいと思ふ。

新體制の如く解釋がむづかしいときは色々な説が出るもの

である。

獨逸の全體主義は日本精神を眞似たと言ふことも一例であ

る。

成程さうも考へられない事もない何故なら日本精神の方が

生れが先である。

併乍ら今迄説明した如く唯物思想は自由及共産主義思想以

外にない何故なら一本の棒の兩極端である其の中にはこれ

以外の思想はない。

だから唯物思想以外の思想を求めるときは當然禁慾思想と

ならざるを得ないこれを日本を眞似たと言ふ事は當らな

いと思ふ。

然もこれは全體主義創始者である野邦獨逸の主權者たるヒ

ットラー總統に對し無禮であらう。

ヒットラー總統の我が鬪争の中に何を書いてあるかを讀ま

ない亦讀んでも理解の出来ない人の言と思ふのである。

既に彼は青年時代に唯物思想を離れて居る彼がウキンの勞

働者であつた時代勞働組合に加入せよ然らざれば首にする

ぞ明日から飯が食へないぞと威かされた。

彼は食へない事など眼中にない御前等如き下劣な物慾者と

行動を共にする事は食へなくなつても嫌だと彼は言つてゐ

るのを讀んでも明らかである。

亦全體主義は新體制の如き立派な精神でない矢張り唯物的

のものであると言ふ事である。

これも理解の出来ない人の言ふ事で繰換して唯物思想は自

由共産思想以外にない事はつきり理解すべきである。

九、新體制

(昭和十五年十二月十六日朝禮)

日本は明治維新を轉機として外來の自由主義思想を入れこ

の思想のもとに政治經濟文化が構成された。

そして自由民權を旗印として過去八十年間に輝しき進展を

なした。

だがこの外來思想は遂に行詰つて世の中に害毒を流すやう

になつた。

これは自由主義の處で話した通りである。

そこで新體制とは唯物思想を排撃して全體主義思想の如く

禁慾思想を根幹とするものである事は近衛公は明らかに聲

明せられて居る。

さうするとこの思想のもとに政治經濟文化が改められる事

が新體制であると思ふ。

然らば政治經濟文化はどうかどうもなつて居らない現在に

まだ凡て自由主義思想のもとに構成されたまゝである。

事變のため物資が缺乏して經濟統制が強化されただけであ

る。

考へてみると新體制は婦人に子が出来て今に生れたら新體

制といふ名を付けてやらうといふ程度である。

それを早く生れろと言つても時が來なければ生れない。

そんなら腹を斷割と言ふ馬鹿もないだらうが新聞でみると

國民の聲は氣の早い事を言つて居るやうである。

ゆつくりと腹の中の子供を育て、丈夫な子供を生みたいものである。

其の子供の生れる時期は何時かと言へば國民から唯物思想が離れるときである即ち新体制の理念が國民全體に解る時期ではないかと思ふ。

だから政治經濟文化に亘つて今日は未だ舊態依然たるものである。

政治はどうか大政翼賛會が出来て上意下達下意上通の機關たらしめる。

これを構成する下部組織としては昔の五人組に等しい常會を作り廻覽板を廻して上意を下達する代表を出して下意を上通する。

議會も議員選舉方法が改められ家長が選舉權をもつ事になりさうである。

經濟はどうか先日關係會議で漸く基礎方針が發表された今日までの經濟統制は獨逸の全體主義のやり方を真似て何も知らない人が机の上で立案したから随分國民は迷惑をしたのである。

文化方面はまだなんにもやつて居ない要するにこれからある。

一〇、續新體制

(昭和十五年十二月廿三日朝禮)

いつたい秀でた人物はすべて母親がえらい孟子の母は有名である。

孟子が都に勉學にゆき途中で家がこひしくなつて遙々田舎に歸つてきた。

丁度母親は孟子の着物を織つてゐたあの長い反物をもう少しで織終るところであつた孟子の顔を見るなりそれを斷切つてしまつた。

お前が勉學を途中で歸るのはこの織物と同じであると戒めた。

よく歸つてきたと心の中では抱きしめたい心でいつばいであるがぐつとをさへて激勵したなんと偉い母親ではないか例はいくらでもある。

育てた母親の如何によつて子供が偉くなるならぬが分れるものと思はれる。

やがて母親たる運命を持つ女子従業員諸子によくこれを考へて置く必要がある。

父親がいくら偉くともその子が偉くなるとは限らないたい

がいはばんくらが多いやうである。

戰場で髑面の兵が負傷して病院で熱に浮かされおつかさんとうはごとをいふさうである親父は呼ばない。

何故か當然である子供を育てる母親は全身これ愛全く終始已れを犠牲にして子供を育てるこれは人間の本能であると言へばそれまでだが。

人生は闘争の歴史であると言ふのと同じである。

母親が熟睡して居るときも赤坊が乳房をさぐるとき眼もあけやらす乳を飲ます雨の日も風の日も雪の日も子供のことばかり考へて居る。

この絶大な愛が己の總てを犠牲にするこの心が子供の心底に刻み込まれるのである即ち子供の指導者は母親である。

何故斯ういふ事を言ふかと言へば人を指導するには口先ばかりでは指導出来ない真心からでない愛と犠牲でない指導は出来ない事を言ひたいのである。

ヒットラーが全體主義を生み有史以來の偉大な業績を將に完成せんとする彼の指導力はまさしく母親の愛母親の犠牲的精神に等しい指導の力で猛烈に進んでゐるのを見て此の感を深くするのである。

翻つて今將に生れんとする新體制は如何眞に以上述ぶる精

神に基いた指導者を得て始めて完成されるものと思ふ。

端的にいふならば日本の新體制は實驗濟の全體主義を参考として行はれるものではないかと思ふ。

即ち政治は
天皇 御親政であつてヒットラーの如き獨裁政治は近衛公のいはれる通り幕府的存在となるからである。

從つて
天皇 の大御心を奉戴し翼賛し奉る立派な指導者を得て始めて新體制が立派なものに育て上げらるゝものと思ふ。

次に最も吾々の生活に關係ある經濟問題を握まへてみると。

第一に考へられることは金權打破である金の妄者を排撃する前に話した通り金さへあれば大臣でも事業でもなんでも買へるユダヤ的存在を抹消して物が値打のものとなる。

第二に考へられることは不勞所得である自由主義のとき話した通り生産者から安く買って消費者に高く賣る使ふ者が困つてもかまはない儲からなければ賣らない働かないで儲かるこれが不勞所得である。

一体儲かる事即ち利潤の觀念が今まで間違つてゐると思ふ何故なれば儲かる事はどんなことでも不勞所得の如く考へ

て堂々たるものでないかの感を抱く傾向がある。備ける事には二種類ある其一つは商業利潤であるこれは不勞所得である。

他の一種は工業利潤であるこれは立派なものと思ふ何故なればあるものを創造し發明し努力によつて今まで一〇生産したものを一〇〇に或は一〇〇〇にと増産して價格十圓のものを一圓に更に十錢にする而かも利益を擧げる此れは不勞所得とはいへないと思ふ。

獨逸ではこれを大に奨励して居る苟しくも増産に對する障害あるものは排撃して大增産に努めるだから國力は驚異的發展をする大に學ぶべしであると思ふ。故に不勞所得を爲し易き商業は不勞所得を爲し得ない配給組織と代る運命を持つてゐる。

現在やかましい中小工業なるものも日本はこれが從來中心であるから一時にこれを變へることは困難であるが次第に消滅して商業は配給と代り工業は大組織の工業に吸収されることとなる然らざれば廣大な國力發展に役に立たんこととなる。

何故なれば中小工業は只眼前の仕事のみに吸々して如何に能率はよくとも進歩すべき研究をなさない亦小規模ではな

所歌

一、 仰げ日の丸 輝く御稜威
萬世一系の よき國體を
産業日本の 旗ふりかざし
光伸び行く 片瀬の丘に
雄々しく聳ゆる 東京螺子

二、 螺子の製造に 草ふみ創けて
營利を次に 撓まぬ努力
魂打込む 製品こそは
國の護りに 大任果たし
榮光燦たり 東京螺子

三、 譽れはらから 手に手を執りて
技術報國 我等が使命
忠と孝との 大義を盡くす
神の恵の 尊き職場
榮えよ永久に 東京螺子

し得ないからである。最後に文化は基礎的政治經濟の確立に従つて剛健な風格を有するものが生れなければならんと思ふ。

最近の新聞にヒットラー總統が勞働者百五十名に勳章を授與したことが書いてあつた國家のために勳功あるのはひとり指導勞働知識勞働のみならず筋肉勞働も等しく國家のために働くのであるから拔擢の功勞あるものには當然である。

斯くして始めて働き甲斐ある社會を現出する即ち働く事を幸福とするのであると思ふ。願はくば日本も斯ういふ時代を早く現出することを希望してやまない。

最後に以上述ぶる趣旨をよく味ひ認識を誤らず多難にして亦光輝ある前途を展くため奮勵努力し以て 大御心を安んじ奉らんことを希望して本講演を終る。

昭和十六年二月十一日印刷
昭和十六年二月廿一日發行
昭和拾六年二月廿拾日發行

(非賣品)

編輯兼發行人 西澤 正
神奈川縣藤澤市本町二丁目
印刷所 三光堂印刷所
神奈川縣鎌倉郡片瀬町片瀬一四八番地
發行所 合資東京螺子製作所

410
395



Vertical text or mark, possibly a stamp or signature, located in the lower middle section of the right page.

